

旧粕谷家住宅

● 1、文化財指定にいたるまで

旧粕谷家住宅がある徳丸は、大都市江戸の近郊農村地帯で、昭和40年代まで田畑や芝地が広がっていた地域です。江戸時代、徳丸地域は徳丸本村と徳丸脇村、徳丸四葉村に分かれており、粕谷氏は代々徳丸脇村の名主を務めた家でした。享保11年(1726)以前に、その名主粕谷家から浅右衛門が隠居し始まった家と伝えられ、現在も建築当初の場所に建っています。江戸時代中期の関東の古民家にみられる特徴(押板・シシ窓・3本の大黒柱・3間四方の広間)をもっていることから、平成15年(2003)に板橋区有形文化財(建造物)に指定されました。



徳丸村周辺風景 大正～昭和初期
(板橋区郷土資料館蔵)



指定当時の旧粕谷家住宅(2008年)



現在の旧粕谷家住宅(2023年)

● 2、復元 ―建築当時の江戸時代の姿へ―

旧粕谷家住宅は、建築当初の部材がよく残っており、それらに残された痕跡をもとに建築当初の形を復元整備する工事を平成28年から平成30年の2年をかけて行いました。その調査・工事の過程で、南東隅の柱の杓に「享保八年 卯二月三日 雪の日」の墨書が発見されたことで建立年代が享保8年(1723)であることが判明し、さらに文化財としての価値が高まりました。それに伴い、平成30年には東京都有形文化財(建造物)に指定されています。



復元前(2016年)



解体・復元工事(2016～2018年)



復元後(現在)



享保14年祈祷札



南東隅柱頂部杓部分

● 3、旧粕谷家住宅築300年とこれからに向けて

旧粕谷家住宅は、一般公開のほかに講座や小学校の社会科見学でも活用されており、古民家を通して昔の暮らしや板橋区について学ぶことができます。令和5年(2023)2月3日～4日には、建築300年を記念してイベントを開催し、専門家による解説会や郷土芸能の公演、火おこし体験などを通じて多くの区民が訪れました。

また、文化財の保存のため、定期的な燻蒸作業や地域消防団と協力して放水銃の稼働訓練なども行っています。300年間、徳丸の地に建つ古民家を地域の宝物として次世代に守り伝えながら活用していきます。



社会科見学の様子(2022年)



節分の室礼(室礼三千)



旧粕谷家住宅築300年記念事業(2023年)